

# 幹事・運営委員と 地元県議・市長町長との合同会議

■日時 / 2024年3月28日(木) ■会場 / サンフロント9階 ミーティングホール



2024年3月、サンフロント21懇話会の幹事・運営委員と地元県議・市長町長との合同会議がサンフロントで開催され、2024年度の活動方針案を協議し、了承された。また一部役員の交代が報告された。記念講演では共同通信社編集委員の内田恭司氏が、自民党派閥の裏金問題や衆院解散時期について、長年の政治部記者の取材経験に基づいた解説をした。

## 主催者挨拶



静岡新聞社常勤顧問  
谷川 治

今年の冬は例年に比べ、暖冬傾向でしたが、ここにきて春らしい暖かな日が続き、桜の開花も進んで一気に春本番を迎えます。豊かな観光資源を有する県東部地区にも本格的な観光シーズンが到来します。この地域のますますの経済活性化が期待されます。

本日は2023年度の活動方針についてご審議いただき、引き続き共同通信社編集委員兼論説委員の内田恭司様に「窮地の岸田政権～どうなる日本」をテーマに基調講演をお願いします。内田様は入社後おもに社会部や政治部で経験を積まれ、政治部では首相官邸、自民党、民主党、外務省等を担当された経歴をお持ちです。

懇話会の活動も30年目を迎えました。長きに亘り、活動を続けてこられたのはひとえに皆さま方のお力添えの賜物であります。今後とも懇話会への活動へ一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

## 懇話会代表幹事挨拶



静岡中央銀行  
代表取締役社長  
清野 眞司

皆さま方には日頃から懇話会活動にご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。本日の合同会議では2024年度活動方針案についてご説明し、皆さまからご意見をいただきたいと思っております。

新年度の活動方針は大きく4つの柱を設けました。一つ目は『未来の都市景観を県東部から発信』。三島駅・沼津駅・富士駅周辺で地域の未来を築くプロジェクトが進んでおり、これらの動きに対し、未来の都市景観を具現化していくよう検討します。

二つ目は『地域創生につながる県東部産業の持続的発展と新産業創出支援』。この地域の一次産業の発展についても考察していきます。

三つ目は『伊豆東部の観光創造、文化力向上の支援』。豊かな観光資源の新たな展開、クレマチスの丘を含めた県東部の文化芸術資産の活用を検討します。

四つ目は『愛護から共生へ。動物と人との一層の近接化支援』。県が2025年度開始を発表した静岡県動物愛護センター(仮称)についても支援を進めてまいります。

これら県東部全域に及ぶ活動に、皆さま方よりさらなるご支援ご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

## 開催地代表挨拶



沼津市長  
頼重 秀一 氏

皆さまにおかれましては、常日頃より静岡県東部地域と沼津市の発展のため、多大なるご理解ご協力を賜り、改めて感謝申し上げます。

沼津市においては令和5年度に市制100周年という節目を迎え、記念式典を開催させていただきました。一年に亘り数多くの記念事業を無事開催できましたことも皆さま方のご理解やご協力があったのと改めてお礼申し上げます。

サンフロント21懇話会で様々ご検討をいただいた鉄道高架化事業は、昨年3月末にJR東海、JR貨物、静岡県の3者が調印式を行い、新貨物ターミナルも本体工事に着工するなど新たなステップに入りました。懸案事項だった新総合体育館も無事オープンし、プロリーグを誘致するなどスポーツツーリズムにも力を入れております。こけら落としには大相撲沼津場所を開催し、沼津市が力を入れているフェンシングの全日本選手権大会も誘致しました。

令和6年度は中心市街地の様々な再開発事業がスタートします。観光DX化や市役所内でのDX化をはじめ、民間企業の皆さまと共にスマート行政を進めてまいりたいと思っております。

市制101年目を迎えた沼津市ですが、当市の発展のみならず、県東部地域のポテンシャルが発揮できるよう、当市で出来ることを一所懸命努めてまいります。今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

## 議事

# 2024年度の活動方針案について

**議長** 頼重 秀一 氏 (沼津市長)

**報告** 伊東 哲夫 氏 (懇話会運営委員長・弁護士)

4つの基本的テーマについて、中長期的なものとして継続して取り組む

- 未来の都市景観を県東部から発信
- 地域創生につながる県東部産業の持続的発展と新産業創出支援
- 伊豆東部の観光創造、文化力向上の支援
- 愛護から共生へ。動物と人との一層の近接化支援

いずれも賛成多数で了承され、6月末の総会にて正式決定することとなった。



講演

# 窮地の岸田政権 どうなる日本

講師

共同通信社編集委員兼論説委員

内田 恭司氏



## 裏金事件の実態と処分の行方

前半は自民党の裏金事件についてお話ししようと思います。裏金事件とは派閥のパーティー券を所属議員が売上げ、ノルマ以上の売上金をキックバックされたという事件です。3人の議員が立件され、二階元幹事長の秘書も起訴され、清和会、志帥会、宏池会の3派閥の会計責任者が同様に立件されました。

キックバックの総額は清和会と宏池会合わせて6億8千万円、志帥会が1億5千万円という巨額なもの。個人的には相も変わらずの金権体質がこういう事件を引き起こし、1988年のリクルート事件よりも酷く、当時と何ら変わっていないと思っています。事件の実態説明は進んでおらず、進めようという気概も感じられません。

取材ベースでの実感で言えば、20年以上前からパーティー券での裏金作りは続いていたと思っています。安倍派清和会では90年代後半から始まっており、東京地検特捜部の捜査も実は今回が初めてではなく、1998年と2006年の2回、捜査に入っていますがいずれも立件には至りませんでした。

2012年の第二次安倍政権が長期政権と

なって以降、清和会の中で裏金作りがシステム化したと思われます。このシステムの肝というのが、パーティー券を売れば売るほどいいポストに就けるというもの。所属議員一とくに若手は同期の中で一番早く政務官に就くというのがモチベーションとなり、しゃかりきになってパーティー券を売ったのです。逮捕された池田佳隆議員もそうでした。

キックバックされた金は、現金で事務所に保管あるいは議員個人の銀行に入れ、秘書の給料や地元議員の寄付など政治活動として使っていたと答えた議員もいましたが、多くは「銀座での飲み代」のほか、「子どもの塾代」「亡くなった母親からの相続税に」としれっと答えた議員もいました。

処分について、岸田首相自らヒヤリングを行い、早ければ4月上旬に決まるといわれています。4月9日から訪米日程が入っているため、その前に決めたいということでしょう。安倍元首相が亡くなった直後、清和会が2022年8月に開いた合議に参加し塩谷さん、下村さん、西村さん、世耕さんの幹部4人を重い処分に、次いで安倍派5人衆とキックバックされた金額が多かった議員を相応の処分とし、岸田首

相自身はおとがめなし、に落ち着きそうです。

## どうなる政治資金規正法の見直し

政治資金規正法の抜本の見直し作業も重要です。ポイントは4つあります。

一つは収支の透明性。現状、政治家個人への寄付は5万円以上、パーティー券は20万円以上で収支報告書への記載が義務付けられています。5万円を1万円に、20万円を5万円ぐらいにすべきではないかと考えられます。

二つ目は、現行の政治資金規正法は1994年に政治改革で決まりましたが、政党支部への献金が抜け道になっています。つまり政党支部長になればいくらでも受け取れる。これに規制をかける必要があるでしょう。

三つ目としては収支報告書をチェックする第三機関の設置です。今も総務省の中にチェック部門があるのですが、形式的になってしまっています。

四つ目は罰則強化。連座制を導入すべきという声は以前からあります。国会議員は選挙で選ばれた国民の代表であり、捜査権を持つ機関によって恣意的に逮捕立件されることには慎重であるべきという考えもあります。今回3人が立件されましたが、立件される議員は今後も増えるでしょう。その意味でも行政罰という第三者機関の権限としての連座制に注力したほうが、とも思います。

自民党はこれら4つの点にどうも消極的で、野党は「とにかく実態解明が先決だ」という。政治資金規正法の改正に向けた動きはどうも平行線の状態です。

## 気持ちが折れない、岸田首相の“鈍感力”

このような状況下、岸田政権はこの先1カ月が極めて重要な局面といえます。結論から先に言えば、岸田総理は6月解散に照準を合わせているようですが、難しいのではないかと見て

います。4月下旬の衆院補選の結果次第という側面もあり、9月の総裁選が最大の山となるでしょう。

共同通信が世論調査した内閣支持率は3月上旬時点で20.1%と過去最低を更新し、朝日新聞が22%、他社も同様の数値でした。通常、内閣支持率が40~50%あるときは自民党支持層なら70~80%あるといわれますが、現状、自民党の政党支持率自体、39%まで下がってしまっています。これはかなり深刻な数字で、青木率といわれる法則(青木幹雄元官房長官が提唱=内閣支持率と政党支持層の支持率の合計が50%を超えていれば安泰)を当てはめると、岸田政権の青木率は44%と赤信号状態なのです。

こういう状況であれば気持ちが折れてしまうでしょう。第一次安倍政権しかり、その後の福田政権も内閣支持率30%の段階で放り出しました。しかし岸田さんは鈍感力に優れているというのでしょうか、まったく折れていないようですね。

野党が弱い、有力なポスト岸田がいないという状況もあると思いますが、今年1月に出身派閥である宏池会の解散を表明し、口うるさい最大派閥の安倍派と二階派が追随して解散したことが大きかった。麻生派や茂木派も余波を受け、自民党の中がまさかの岸田一強状態になってしまったのです。

9月の総裁選は厳しい選挙になるかもしれませんが、少しでも政権浮揚をさせ、総裁選を有利にするためにも、岸田さんは6月解散に照準を合わせているのでしょう。6月上旬にイタリアでサミットが予定され、7月上旬には都知事選がありますので、サミット後の解散で7月の都知事選とのダブル選挙をもくろんでいるのではないかと見ています。

最大のポイントは4月28日の3つの衆院補選です。3つのうちできれば2つ、最低でも1つ勝てば何とか。そのためにも支持率を上げなければなりません。

追い風要因になるとしたら、ひとつは春闘での大幅賃上げ。昨年に続く2年連続の賃上げは大きいと思います。もう一つは日銀のマイナス金利解除。金融の正常化とデフレ脱却がアピール出来る点です。4月9日から14日までのアメリカ訪問は国賓待遇ですからそれなりに報道もされ、なんやかんやで追い風となつて、うまくいけば支持率を25%前後～後半まで持って行けるかもしれません。

さらなる政権浮揚として岸田さんが考えているのは、6月の所得税減税と、4月の補選後の党人事です。具体的には茂木さんの幹事長交代ですね。岸田さんは茂木さんとどうもソリが合わず、岸田さんは以前から交代させたいと思っており、国民受けしやすい石破さんあたりが登用されれば、確かに刷新感は打ち出せるでしょう。そして6月総選挙で大敗しなければ政権続行は可能だと岸田さんは見ているようです。

### シナリオ通りにはいかない現実

では実現性はどうかといえば、個人的には正直厳しいと見ています。裏金事件の実態解明が進まないのが最大のネックです。自民党の所属議員は森元首相がすべてを差配してきたと、皆思っていますが、口にはできない。5人衆は森さんを守ることで一致しており、岸田さんが森さんに話を聞いたところでどうにもならない。パンドラの箱を開けるわけにはいかないということです。

そうすると国民の不満は払拭できず、支持率向上にはつながらないでしょう。賃金上昇が追い風になるといっても大企業の話で、中小企業ではどうなのか、インフレ率を上回るような賃上げが可能なのか見通せません。訪米の成果も相手がバイデン政権では見通せるものがないでしょう。

4月の補選はどうかというと、東京15区はおそらく都民ファーストの立候補者に相乗り

するでしょう。島根1区は保守王国といわれ自民党は財務官僚の新人を立てる予定ですが、現時点で立憲の現職に14～15ポイント離されています。新人で知名度がないのは仕方ないとしても、島根1区は統一教会問題でミソをつけた細田前衆院議長の死去に伴う補選で、自民党には逆風状態なのです。長崎3区は候補者を立てないようですから、東京と島根で敗れたら岸田おろしの流れに傾いていくでしょう。

### ポスト岸田は岸田か上川か

ではポスト岸田は誰か、ということになりますが、キーマンとなるのは麻生さんと菅さんですね。この2人をキーマンに石破さん、上川さん、高市さんの3人が競うのではないかと見られます。

党内派閥は解消されたといっても、今後、8～9ぐらいの政策グループが出来るとでしょう。それらグループが合従連衡でポスト岸田に動いていくと思います。無派閥の菅さんや小淵優子さんを中心としたグループは石破さんを推すでしょうし、上川さんには麻生さん岸田さん茂木さんのグループが付く。高市さんは保守系グループが支えるでしょう。

ご当地静岡の上川陽子さんはポスト岸田の世論調査で石破さん小泉さんに次いで3位に着けています。初の女性首相ともなればインパクトがあるし、本人もこういう状況をまんざらではないと思っているようです。

しかしながら上川さんは党内基盤が弱く、宏池会の中でも「ポストお化け(=ポストにがめつい)」と揶揄され、よく言う人はあまりいない。麻生さんの傀儡政権になるのでは、との見方もあります。党の要職経験がなく、外務大臣といってもW P S (女性・平和・安全保障に対する取組み)には熱心だが軍事分野は門外漢であまりやりたがらず、マクロ経済についても弱い。最大のネックはポスト岸田の世論調査の数字で、岸田さんが上川さんの半分以上という



結果に、岸田さん自身大きなジェラシーを感じていること。外務省にも岸田さん直々に「WPSなんかより核をやれ」とプレッシャーをかけているようです。

いずれにしても、もう少し女性首相待望論が高まってくれば、これら課題を乗り越えて上川首相の芽も出るのではと思っています。

岸田政権が厳しい状況にあるのは、気の毒な面もあります。支持率低迷の要因は安倍派

の後始末を背負わされている点にあり、賛否はありますが防衛費の増額、原発処理水の海洋放出、経済の立て直し等々、実はいろいろやっているのです。

イギリス人はバラを、日本人は桜を愛するといえます。バラというのは萎れても枯れても茎にしがみついているが、桜はパーツと散ってしまう。岸田首相にはバラの根性を持って頑張ってもらいたいと思っています。

### 〈講師プロフィール〉

**内田 恭司** (うちだ・きょうじ) 氏

共同通信社編集委員兼論説委員

東京都出身。1991年慶應大学法学部政治学科卒。同年、共同通信社入社。千葉支局、社会部、岐阜支局を経て1999年に政治部。社会部では阪神淡路大震災やオウム事件のほか青島都政を取材。政治部では首相官邸、自民党、民主党、外務省などを担当し、小泉郵政政局や民主党政権誕生、日本人拉致問題などを取材。2013年政治部デスク、2018年政治部担当部長、ニュースセンター整理部長を経て、2022年4月より現職。



# サンフロント21懇話会

## 2023年度 第29回 全体会

日時 2023年12月19日(火)

会場 みしまプラザホテル



サンフロント21懇話会は2023年12月19日、みしまプラザホテル(三島市)で2023年度全体会を開催した。本年度の活動経過報告と来年度方針案、30周年記念事業等について説明があった後、記念講演ではMIKAWAYA 21株の青木慶哉社長が「超高齢化社会のピンチこそチャンス! DXで軽やかに」と題し、最先端テクノロジーを活かした地域密着型高齢化社会支援の実例を熱く語った。続いて沼津市在住の中学生シンガーソングライター KOKONAさんによるミニコンサートを開催。世界で活躍できるアーティストになると誓う勇姿に参加者は拍手喝采を送った。



## 主催者挨拶



静岡放送代表取締役  
谷口 智康氏

本日はお忙しい中、第29回全体会に多数ご参集いただき、誠にありがとうございます。

2023年の東部地区での重大ニュースといえば、大相撲の熱海富士関の活躍が挙げられます。2場所連続で千秋楽まで優勝を争って敢闘賞を受賞し、地元を大いに勇気づけてくれました。来場所以降の県内出身力士のさらなる活躍を期待しているところです。

本日はシニア向け生活支援事業を手掛ける青木慶哉社長のお話をうかがいます。青木社長は新聞販売会社勤務を経てこの事業を思い立ち、自身で起業し、次々に新たなサービスを展開されている気鋭の経営者です。昨今の超高齢化という社会課題にデジタルという新しい切り口で向き合っておられます。また中学生シンガーソングライターKOKONAさんのステージもお楽しみいただきます。素晴らしい歌声をぜひご堪能いただければと思います。

当懇話会の活動は2024年に30周年を迎えます。ここまで継続してこられたのも会員の皆さまのご支援ご協力の賜物であります。ここに改めて感謝申し上げるとともに、さらなるご協力をお願いし、主催者のご挨拶とさせていただきます。

## 懇話会代表幹事挨拶



静岡中央銀行  
代表取締役社長  
清野 眞司

本日は年末ご多忙の中、多くの皆さまに足を運んでいただき、感謝申し上げます。

2023年を振り返りますと、明るい話題としては5月に新型コロナウイルス第5類指定を機にさまざまな規制が緩和され、旅行業界や飲食業界に活気が戻ったことが挙げられます。魅力的な観光資源や食材が多い県東部にとっても大きなビジネスチャンスが生まれたと考えております。日銀静岡支店の短観でも、資源高の影響を受けつつも本県経済は回復傾向にあり、企業の生産に持ち直しが見られるとの発表がありました。

一方で円安や資源高に伴う値上げの波や人手不足の深刻化が露呈した一年でもありました。国際情勢でもロシアによるウクライナ侵攻の長期化、イスラエルとイスラム過激派組織ハマスとの勃発など不安定な状況が続いております。

そのような中、当懇話会では9月の伊豆地区分科会で温泉や食を活用した地域振興をテーマに、11月の東部地区分科会では未来のまちづくりをテーマに討論を重ねました。地域の未来を築く東部地域の全体の発展につながるよう、これまでに増して実効性のある提言活動に取り組みたいと考えております。

県東部をより活力ある地域にするためには、柔軟で独自性に溢れた新たな発想が求められます。あらゆる機会に皆さまのご意見をいただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

## 開催地代表挨拶



三島市長  
豊岡 武士氏

本日は当市で全体会を開催していただき、心より感謝いたしております。

三島市は現在、都市としての基盤整備、新たな時代への対応などさまざまな取組みを進めております。

三島駅南口の再開発事業では1.3ヘクタールの土地に24階建ての住居棟を含む6棟のビル建設の許認可が県知事より下り、ようやく着工の運びとなりました。駅前南口の隣では定期借地事業としてミサワホームに貸し出し、4階まで商業施設、その上はホテルの建設が計画されており、併せて300億円余の事業になる模様です。

三島南高校の南側では水田地帯の地権者が都市的な再開発を希望し、区画整理事業を進めようと180名の地権者による準備組合を結成し、デベロッパーも決まりました。

玉川地区ではファルマバレープロジェクトに参画する医療機器メーカーの進出が計画されています。また三ツ谷地区では21ヘクタールの工業団地を整備し、PCR検査キット等を製造する優良企業の進出が決まっております。このようにさまざまな基盤が整いつつあり、2024年以降の経済発展が大いに期待されているところです。

本日は超高齢化社会に向けてのデジタルの活用がテーマということですが、三島市もデジタル化によるスマートシティの取組みを進めております。デジタル化は可能な限り広域で取り組もうと、裾野市、長泉町、清水町、三島市で富士山南東スマートフロンティア推進協議会を作り、この地域に多くの企業を誘致しようと計画しています。12月1日から5日までは御殿場線の下土狩駅から三島駅まで自動運転の実証試験も行いました。

熱海市、函南町、三島市では伊豆ファンクラブ推進事業に取り組んでいます。観光地で撮影し、SNSに投稿されたデータを分析し、新しい観光政策に役立てようというものです。

また三島市内にはバーボンウイスキーの製造工場が新たに誕生しました。3~5年後の発売に向け、多くの交流人口の増加を目指しているところです。

2024年以降の皆さまの大いなる発展を心より祈念しております。



記念講演

# 超高齢化社会の ピンチこそチャンス！ DXで軽やかに

講師

MIKAWAYA21株代表取締役社長  
青木 慶哉氏



## 人生の後半に見えてくるもの

当社は創業間もないベンチャーですが、本当に全国各地からお声かけをいただき、皆さんが面白がって協力してくださっています。三島でもすでにパートナー企業が何社かあります。今日は「21」同士で地域の未来についてお話できることを楽しみにうかがいました。高齢化社会に対し、経済人が事業で貢献し、高齢者も若者も皆元気でまちづくりができる手段を考えていければと思っています。

今日は三島へ来る前、長崎県の壱岐で地域医療を担う40代のドクターに会ってきました。月間130軒の訪問診療をこなす熱血先生です。午前中、先生の訪問診療に同行させてもらったのですが、末期ガンの82歳のおじいちゃんに対し、横でおばあちゃんは「私はこの人を最小限しか世話せん。酒飲んじゃいかんて、あれ程言うたのに飲むからこうなった、バチがあたったんや」とこぼしておられました。死を目前にした老夫婦の会話を通して、人生の後半にいろいろなものが現れるんだなと強く印象に残りました。

2軒目は102歳のお一人暮らしのおばあちゃんです。お元気そうに見えましたが肝臓にガンがあり、いつどうなるかわからないようです。

それでもいつもニコニコ笑って自分でお風呂も入るし食欲もあるそうで、「先生が週1回来てくれるのが楽しみ」とおっしゃっていました。

3軒目は認知症のお一人暮らしのおばあちゃんです。先生が来ると、いつも喜んで迎えてくれて、帰り際は先生の車が見えなくなるまで丘の上の家からずっと手を振り続けるてくれます。バックミラーでその姿を見ながら「ご近所にはずいぶん迷惑を掛けているみたいだけど、僕にはああやって手を振ってくれるんだよね」と先生。ただしこの日は状態があまりよくなって急に「帰ってちょうだい、二度と来ないでちょうだい」と怒り出しました。認知症特有の異常行動で、認知症の3人に1人はこうなるといわれています。

昼からは重度の認知症患者を預かる施設を訪問し、三島へやってきました。本来ならば懇親会まで皆さんとご一緒したかったのですが、今日はこのまま羽田経由で沖縄へ入ります。沖縄電力さんと一緒にやっている事業があり、後ほどご説明いたします。

## 超高齢化日本の現実

日本は2025年以降、2040年まで止まることなくガーンと高齢化が加速する超高齢化社



会を迎えます。この間、もちろん労働人口も激減します。高齢化が進む中でGDPを成長させた国は世界に一つもありません。人類史上初の、誰も経験したことのない社会で私たちは企業を成長させていかなければならないのです。

介護分野に目を向けると、現在16兆円ぐらい掛かっているのが20兆、24兆、28兆と増大の一途。対してGDPは下がる一方です。現役世代は所得の半分以上を税金に取られるならば、働き方も、仕事への向き合い方も変えざるを得ないでしょう。

所得に余裕があり、介護サービスを利用しようと考えていても、介護業界は慢性的な人材不足です。私は全国の200のパートナー企業とともにケアマネージャーを訪ね、状況の把握に努めていますが、ケアマネさんやヘルパーさん自身も高齢化しています。フィリピンやベトナムあたりから人材を確保しようとしても、円安の影響で難しくなりました。

昨日は壱岐でケアマネさんとミーティングをしましたが、壱岐はすでに25年後の日本と同じデータを示しています。日本で25年後に経験するであろうことが現実になっているのです。とにかく介護職は高齢化し、若い人はサービス業志向で、何なら海外に出稼ぎに行ったほうが何倍もお給料がもらえるという状況です。

介護保険制度がスタートする前の2000年以前、寝たきりの高齢者は家族や親戚、ご近所がサポートしていました。介護保険制度の施行後、当初は介護レベル5か4が対象だったのを、レベル3、2、1へと裾野が広がり、さらに要支援レベルまで設定されました。この20数年の間、介護はアウトソーシングするという文化が浸透し、親の面倒は地元の社協やヘルパー、ケアマネに任せれば良いという風潮が定着したのです。そこから再び家族やご近所が面倒を見るという文化を作り直すのは極めて難しい。

皆さんは「ピン、シャン、コロリで逝くのが理想」と思われるでしょう。そうなるには定年で仕事を辞めてのんびりしようではなく、なる

べく長く現役でバリバリ頑張っていたいただきたいのです。引退されると一気に気力体力が落ちます。最期の日までお仕事を続けるのが一番です。

### 会社の成長を止めてでも 人材を守れ



日本では、本当にここが先進国かと思えるほど孤独死が増えています。東京都だけが正確なデータを取ってしまして、2003年から2018年までの65歳以上の孤独死件数は約3倍増。そのうち3割以上が死後、誰にも気づかれず、2週間以上放置されていました。

イメージしてみてください。2週間も放置されたご遺体は、人の尊厳どころではないほど腐敗が進んでおり、通報するのは家族や知人ではなく、異臭に気づいたマンションの管理人さんなどです。

データでみると、ご近所との交流も激減しています。三島はどうでしょうか。皆さんのご近所にはもう少し温かいコミュニティーがあるかもしれませんが、私たちは実に寂しい時代に生きていると言わざるを得ません。

今日のタイトルにも「ピンチ」と入れましたが、私たちの身の回りにはピンチがたくさんあります。皆さんにこれだけは覚えて帰っていただきたいのですが、社内にいい人材がいたら絶対に手放さないでください。出来る限り給与も福利厚生も評価制度も強めていただき、業界に関係なく共通認識にしていいただきたいのです。

私は44業種215人のオーナーさんとお付き合いをしていますが、44業種すべての業種で人材不足です。2024年は、いったん会社の成長や利益率を適正水準で下げてでも、いい人材を確保することに尽力すべきだと思っています。私たちの会社はベンチャーですから死ぬほど働きます。給料も高くなく、夢と希望と志だけが〈糧〉ですが、そんな当社でも最近、週休3日制度を導入しました。

自治体はどうでしょうか。お付き合いをしている市役所の皆さんは、どこもお忙しい状況で

す。自治体の数が減り、仕事は増える一方で、予算も潤沢になく、本当にご苦労されています。高齢者や独居が増え、それにつけ込む悪徳業者も増えています。

### サザエさんの御用聞き サブちゃんから学ぶ



このような現実を踏まえ、私たちはこれからどうすべきでしょうか。地域住民の関係性や家族関係が希薄になる中、高齢化社会の地域課題を自治体だけで解決するのは困難です。そこで地域密着のビジネスを展開してこられた企業の皆さんが、地域に対して貢献的でビジネスチャンスも併せ持つチャレンジをしていただきたいと。皆さんの一歩が地域のコミュニティーを強くするのではないかと期待しているのです。

当社は2012年に設立しました。最初は私もともと新聞販売会社を運営していた関係で、新聞販売店の皆さんに声を掛けました。2018年からは新聞業界以外の方にも声を掛け、現在、44業種の皆さんとともに地域の高齢者を支える事業を展開し、投資家や事業会社の方からも株主としてご支援いただいています。

MIKAWAYA21という社名は、漫画サザエさんに登場する三河屋の御用聞きサブちゃんになりたい、21世紀の三河屋になりたいという思いから命名したものです。

サブちゃんというキャラクターには「一橋大学に進学し、サントリーに就職したが父の酒屋を継ぐために帰ってきた」という説と、「中学を卒業してそのままお父さんの酒屋を継いだ」という説があるそうです。当社はサントリーさんにスポンサーになっていただいているので、前者の説を推しています(笑)。

サブちゃんはサザエさん宅の玄関のインターホンを押すことなく、勝手口から「ビール持ってきましたよ～」と入って来ます。皆さんも地域密着でご商売されていると思いますが、社員がお客様の家の門扉を勝手に開けて入ったらクレームものでしょう。私も長らく新聞販売の仕事をしてきましたが、門扉を開けて勝手

に入ったら確実に通報されていたと思います。

サブちゃんが許されるのは、信頼関係があるからですね。サブちゃんの頭の中には、サザエさんの家の家族構成や学校の行事スケジュール、どのくらいのタイミングでお醤油やビールが切れるのかも入っている。大変優れたCRM(顧客管理システム)ですね。地域密着とは何か、地域で真の信頼関係を作ったビジネスとは何か、地域をひとかたまりではなく一軒一軒のニーズやお困り事を把握して事業を進めているかを、サブちゃんからいつも学んできました。

### 高齢者の困り事を 地域で解決するしくみ



若い人に新聞が売れなくなった頃、ソフトバンクショップを始めましたが、iPhoneが日本一売れました。おじいちゃんやおばあちゃんに一生懸命iPhoneの使い方を教えたからです。この頃は自分の商売の成長だけを考えてきましたが、まごころサービス事業を始めてからは、地域社会の課題解決に向き合うようになり、今春からはインパクトスタートアップ協会という社会課題解決を目指すベンチャーだけの組織にも参加しています。

今、私たちは「シニアの毎日に豊かさを」「すべてのシニアに隣人を」という熱いメッセージを発信しています。豊かさとはマネーではないんですね。当社は東京の荒川に本社がありますが、荒川の下町に住む93歳のおばあちゃんから「お金はいらん、年が離れた友だちが欲しい。同年代の友だちはみんな死ぬから」と聞きました。それがおばあちゃんにとっての豊かさなのです。

これまでいろいろな困り事を全国で約65万件以上、解決してきました。もちろん当社1社でやるのではなく、各地域で、おじいさんの代からガソリンスタンドを運営している人や、牛乳屋さん、新聞屋さんなど、地域で長年ご商売をされている方々にパートナーになっていただいています。先ほどまでご一緒だった壱岐のド



クターは医療機関併設の介護施設を運営されており、当社のまごころサービスを付与しようと言ってくれました。介護、医療、保険関係はもちろん、シニアの住環境を考える建築関係の方々からもお問合せをいただいています。

北海道から沖縄までたくさんの仲間が増え、大手企業からも声が掛かるようになりました。Googleさんとは全国で1,000回以上、高齢者対象のスマホ教室を開催したり、サントリーウエルネスさん、本日の主催者である静岡新聞社さんとも連携させていただいています。

### 日本一、シニアのニーズを知る会社に



私たちはシニアのあらゆる困り事をワンストップで解決し、決してたらい回しにはしないことを旨にしています。

新聞販売店を運営していた頃、奈良の生駒に住むおばあちゃんが、ネコの排泄用の砂を買っても重たくて持ち帰ることができない。生駒市役所に相談したところ、市役所の職員がその場で私たちの新聞販売店に頼んでくれたそうです。そんなことからこのサービスをスタートし、何を言われてもなんとか解決してきました。自分たちで出来ることは自分たちでやって、出来ないことは出来る人を探して頼む。そんな積み重ねでこの12年間、あらゆる課題解決のノウハウを蓄積してきました。

先日、91歳の車椅子のおばあちゃんから、東京から鳥取まで友人に会いに行く7日間の旅行に同行してほしいというご依頼をいただきました。我々ではもし何かあったらまずいと思い、介助ノウハウを持つ旅行会社を探して紹介しました。JALさんからは、ラストフライトという人生最後の旅のサービスを企画したので一緒にやりませんかというお誘いをいただきました。これまで唯一、解決できなかったのは、飼っていたインコが逃げてしまい、探して欲しいというご依頼でした。

本当にいろいろなご依頼があります。電球交換、庭の草むしり、ハウスクリーニング、リ

フォーム、遺言の作成補助、家の売却のサポート、補聴器を買いたいから付いてきて欲しいという要望もあります。

私たちのモットーは、作業の請負で終わらず、その前後のお話を大切にすること。他に困っていることはないかも含め、かれこれ30分ぐらいはお話の時間にあてます。そうすることで最初は警戒していたご依頼者もだんだん心を開いて、家族や友人にも話せなかったことを打ち明けてくれたりします。そんなふうになら日本一シニアのニーズを知る会社になりたいと思っています。

### 地域コンシェルジュの役割



お話し相手になるのは、コンシェルジュと呼ばれる方々です。この方々とは業務委託契約を結び、時給や交通費は払いません。何か困り事があったらご依頼者のもとへ行ってもらい、サポートが発生したらフィーの65%を支払います。

コンシェルジュさんは決まった勤務シフトではなく、自分の都合のいい時間に活動してもらいます。たとえば庭木の剪定を頼まれたらコンシェルジュさんのグループLINEに流して都合の付く方に行ってもらおう。そんな新しい働き方＝有償ボランティアやソーシャルギグワーカーという言い方をしますが、大学生、主婦、定年退職後のシニアなどが参加しています。現在、登録者は2,000人を超えていますが、来年あたり1万人を超えるのではないかと思います。男女比は半々くらいです。平均月収は月2～3万円程度ですが、家の売却を依頼されたときは一度に80万円を超える収入がありました。最近では10～20万円稼ぐ人もいます。

我々もコンシェルジュのスキルアップのため、木の剪定やハウスクリーニングの講座を開いたり、コンシェルジュのための大学も作りました。ご依頼者とコンシェルジュの対話の内容はシニアの本音としてビッグデータに蓄積され、全国的にどのような困り事が増えてきたの



かを分析しながら新しいサービスを開発しています。

一般に、地域での高齢者の介護サポートはケアマネジャーの仕事ですが、ケアマネさんの手には負えない内容や軒数を我々がサポートします。といっても当社の社員が走り回るのではなく、コンシェルジュさんを集めてサポートします。

コンシェルジュさんが30～50人集まれば、かなりの支援が可能です。町のみんなで町の課題を一つ一つ解決していこうということ。地域包括ケアではカバーしきれない部分は民間が支える。そういう〈民力〉が町の未来を支えていくのだと思っています。

### しゃべるボタン 「マゴコロボタン」を開発



DX(デジタルトランスフォーメーション)とは、ただ組織をデジタル化させるだけではなく、デジタル化によって変容し、違う組織に生まれ変わっていかなければなりません。会社も、地域や社会の役に立つような組織に変われば、地域の未来は明るくなるのだと思っています。

地域コンシェルジュの仕事はどちらかといえばアナログな世界ですが、これからの時代はデジタルを使いこなさなければ生産性は上がりません。この150年、電話・FAX・インターネットの登場で生産性は30倍になりました。AIの登場で人間をはるかに超える処理能力が可能となり、加速度的に生産性を上げていこうでしょう。

そんな中、我々は「IoTデバイス マゴコロボタン」を6年前に開発し、多くの自治体で使ってもらっています。コンセントに接続するとSIMカードが通信会社の電波をキャッチし、「青木さん、10時になります。お薬飲んでください」「飲んだらボタンを1回押してください」「推してくれてありがとう」というように自動でしゃべります。「今日はお昼1時から歯医者さんですよ」「燃えるゴミの日ですよ」等々、お年寄りがかうっかり忘れそうなことを声でアナウンス

してくれるのです。


本来ならコンシェルジュが毎回電話でお伝えできればいいのですが、マンパワーには限界がありますので、あらかじめ声を録音しておきます。お孫さんの声で「おばあちゃん、ちゃんと散歩に行つてね」としゃべることも可能です。「今日は晴れみたいだよ」としゃべると天気予報とも連動できます。これが大好評で、防災無線の代行にもなるため、総務省消防庁の認定を受け、自治体が導入するとき総務省が費用の7割を負担してくれることになりました。すでに佐賀県や福島県で導入してもらっています。

何か特別に要望があればボタンを2回押します。そうすると私たちのコールセンターにつながり、こちらから電話をします。「昨日から熱があるからポカリスエットを買ってきて欲しい」「お米が切れたから届けて欲しい」という細かな要望もお受けします。

今はAIの時代ですので、会話するAIエンジン搭載の機器も登場しています。高齢者向け家庭用ロボットを作ったアメリカのベンチャーには36億円の資金が集まったそうで、世界では年齢とテクノロジーを掛け合わせた「エイジテック」、ヘルスケアとテクノロジーを掛け合わせた「ヘルステック」と呼ばれる分野が進展しています。

もはや、すべてをマンパワーでまかなう時代ではありません。日本はレベルの高い教育を受けた労働者が多かったため、何でもマンパワーでやってのけようとしてきましたが、そういう時代ではなくなりました。

### Wi-Fiセンシングで 見守りサービス



沖縄電力さんとは3年前から、屋内でWi-Fi電波を飛ばし、高齢者が家の中を移動したら電波が揺らぎ、高性能センサーがキャッチし、どれくらいの速度で歩いたか、夜中に何回目を覚ましたか、つまづいたか、転倒したか、胸のふくらみを計って息をしているか、していないかも分かるようにするWi-Fiセンシングシステ

ムを実証実験しています。

このシステムの特徴は、カメラを取り付けてプライバシーを侵害するようなことなく、精度の高い電波を活用し、お年寄りを見守ることで、3年前は少し精度が悪くて、扇風機が首を振ったりペットが走り回るのを「おじいちゃん、今日は元気です」と教えたりしたのですが、ここ1~2年でAIが進化し、かなり精度が上がってきています。

今は1人の居室が対象ですが、いずれ2人暮らしの高齢者宅でも可能になるでしょう。もともとはアメリカの教授が開発した基礎技術をシンガポールの企業がAIでレベルアップさせたもので、海外ではフィリップスが電球の中に搭載し、セキュリティ電球としてすでに出荷を始めています。

この技術を沖縄電力さんが高齢者の見守りサービスに活用しようと、まごころサービスをパートナーにしてくれました。シニアに365日24時間寄り添うことができるサービスですので、ぜひ自治体で広げていってほしいと思っています。2025年から本格的な実用化が始まるようですが、2024年も多くの自治体で実証実験が始まります。

三島のことを一番知っている皆さんのような経営者が、三島の高齢者が必要としているサービスを届けることが大事です。それにはサブちゃんの頭のようなCRMを活用していただきたいと思います。我々はシニアの行動ビッグデータを、プライバシーに配慮しながら蓄積・分析を進めていきます。歯を食いしばって気

合いと根性で乗り越えようとするのではなく、我々のような世界の最先端テクノロジーを見張っているベンチャーをうまく活用していただきたいのです。テクノロジーはベンチャーにまかせ、人にしかできないことは町のコンシェルジュにまかせる。コンシェルジュという新しい働き方を創りましたので、それをうまく導入し、皆さんはコミュニティーリーダーとして地域課題解決事業を育ててほしいと思います。

### シニアにとってサポート以上に 必要な〈居場所と役割〉



65万件のサポートを通して感じるのは、シニアの問題は寂しさと孤独に起因しているということです。居場所と役割をつくる必要があります。

今、荒川の本社1階は街中食堂、街中スナックとして開放し、地域のおばあちゃんにおぼんざいを作ってもらって出しています。夕方4時ぐらいからおじいちゃんが飲みに来て、会社帰りのサラリーマンと昔話を熱く語り合っています。

仙台のパートナー企業では「ジーバーFOOD」と名付けておばあちゃんが50人ぐらい集まってお弁当を作り、オフィス街に届けています。そんなふうにおじいちゃんおばあちゃんの居場所作り・役割作りに努めています。

地元の商売人が、政府や自治体に何とかしろというわけにはいきません。商売人の矜持として、ビジネスで解決していこうと決意し、行動していけたらと思っています。

### 〈講師プロフィール〉

**青木 慶哉** (あおき・よしや) 氏 MİKAWAYA21(株)代表取締役社長

大阪府枚方市出身。高校卒業後、新聞販売会社で飛び込み営業を経験した後、20歳でリフォーム事業を起業。23歳で新聞販売店の経営を始め、27歳で本社直営店の代表に就任。ソフトバンクショップを併設させ、新聞とスマートフォンの販売戦略としてシニア向け生活サポート「まごころサポート」をスタート。2012年、新聞販売会社を売却し、MİKAWAYA21(株)を創業。まごころサポート事業をソーシャルフランチャイズ展開する。

# サンフロント21懇話会

2023年度第29回富士山地区分科会

## 動物と共に 幸せに暮らせるまちづくり

日時 2024年2月20日(火)

会場 ホテルグランド富士



サンフロント21懇話会は2月20日、ホテルグランド富士(富士市)で2023年度富士山地区分科会を開催した。懇話会の活動方針の一つである「動物との共生によるまちづくり」をテーマに、識者や活動家がさまざまな提言を行った。基調講演では国際セラピードッグ協会創設者で音楽家の大木トオル氏が、国内外での啓発活動や殺処分の現状と課題、殺処分を免れた捨て犬がセラピードッグとして人との共生を実現させた事例を紹介。続いて来年富士市に開設予定の静岡県動物愛護センターの概要を県生活衛生局の阿部冬樹技監が解説。パネルディスカッションではサッカーJ1のFC町田ゼルビアに所属の鈴木準弥選手(沼津市出身)、企業経営研究所の中山勝常務理事が加わり、動物愛護とまちづくりの可能性について討論した。



## 主催者挨拶



静岡放送代表取締役  
谷口 智康

本日はお忙しい中、富士山地区分科会にご来場いただき、誠にありがとうございます。今年は元日の能登半島地震の発生で石川県を中心に甚大な被害がありました。お亡くなりになった方々へ哀悼の意を表するとともに、被災地の一日も早い復旧復興を祈っております。

本日の富士山地区分科会は当懇話会の活動方針のひとつである動物との共生をテーマに、県東部地区が動物と人が共に生き幸せに暮らせる先進地区となるよう、さまざまな観点から議論を進めたいと思っております。

基調講演にお招きした大木トオル氏は、音楽家であると同時に長年動物愛護の活動に尽力され、東日本大震災では福島県の被災地でセラピードッグが人に無償の癒やしを与える活動に取り組みられました。パネルディスカッションでは沼津市出身のJリーガーでFC町田ゼルビア所属の鈴木準弥氏に、自身が取り組まれている犬の殺処分ゼロの活動についてご紹介いただきます。

当懇話会の活動は今年で30年の節目を迎えます。長きに亘る会員の皆さまのご支援に改めて感謝申し上げますとともに、さらなるご指導ご協力をお願い申し上げます。

## 懇話会代表幹事挨拶



静岡中央銀行  
代表取締役社長  
清野 眞司

2024年がスタートして2カ月が過ぎますが、今年は例年のようなおだやかな年明けとはなりません。ご承知のとおり元日に発生した能登半島地震によって甚大な被害がもたらされました。懇話会としましても亡くなられた方にお悔やみを申し上げますとともに、被災地の一日でも早い復旧復興を心よりお祈り申し上げます。

一方、株価はバブル崩壊後の最高値を示すなど経済界は明るい兆しが見えています。辰年は景気が上向くといわれますが、どの地域も飛躍の年になりますよう皆さまと力を合わせてまいりたいと思っております。

本日は動物との共生をテーマにしました。静岡県は富士市に動物愛護のセンターを2025年開所予定です。本日の分科会が県東部の動物愛護の意識をさらに高める気づきをもたらしてくれるものと期待しております。

当懇話会の活動は地域社会の持続的な発展に寄与することをテーマにしております。日頃の懇話会活動にご理解ご尽力を賜り、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。今後ともどうぞよろしく願います。

## 開催地代表挨拶



富士市長  
小長井 義正氏

昨年に引き続き富士市での懇話会の開催、誠に感謝申し上げます。本日は沼津市の頼重市長にもご出席いただいております。近年、沼津市とはさまざまな連携をしております。市長のご臨席に感謝申し上げます。

能登半島の被災地では今なお厳しい状況が続いております。富士市も緊急災害援助隊や給水車、DMAT(ディーマット、災害派遣医療チーム)、倒壊家屋危険度判定認定者等の派遣を通して引き続き支援を継続してまいります。地震災害は当地にとっても人ごとではありません。災害に強いまちづくりのため、市民の安心安全を確保するさまざまな施策に取り組んでおります。

本日は動物との共生がテーマです。犬や猫を家族のように大切にす  
る方々が増えておられますが、一方でマナーを守らない、飼育放棄、災  
害時でのペットの扱いなどさまざまな問題もありますので、今回の分  
科会には大いに期待をしております。

富士市大淵の県立富士見学園跡地に静岡県動物愛護センター(仮称)  
が2025年に開設、と伺っております。富士市といたしましても県と  
連携し、動物との共生についてしっかり取り組んでまいりたいと思っ  
ております。



## 基調講演

# 人と動物との共生 幸せの絆

講師

音楽家、  
一般財団法人国際セラピードッグ協会創始者  
**大木 トオル 氏**



### アメリカで出会ったセラピードッグ



久しぶりの静岡です。今日は長年の活動を紹介するとともに、日本の犬や猫たちの殺処分の廃止方法、殺処分寸前で救った犬たちがセラピードッグとして人を救う事例をお話したいと思います。

日本は残念ながら、動物愛護の分野で世界から50年の遅れを取っています。ドッグセラピーはアメリカで70年の歴史のある治療方法です。

私は東京日本橋人形町で戦後すぐに生まれ、45年前に音楽家として渡米しました。住んでみて実感するのは、アメリカという国はとにかく揉める。デモクラシーの父になりたい国であり、民族や宗教が異なる合衆国。州で法律が異なり、いろいろな人種によるユナイテッドな国ですから、すべてうまくまとまるといことがないのです。

そんな国でも、3つだけうまくいったことがあると思っています。スポーツ、音楽、動物愛護。この3つはアメリカが真に世界に誇れるジャンルです。アメリカで音楽活動に必死だった頃、「あなたのライフワークは何ですか？」と訊かれたことがあり、音楽しか頭になかった私

は何も答えられませんでした。何か社会のために役に立ちたいというマインドがアメリカ人にはあるのですね。

あるとき、ニューヨークにあるフローレンス・ナイチンゲールの施設でセラピードッグに出会い、衝撃を受けました。鎖でつながれ残飯を与えられる日本の保護施設の犬とは大違いで、社会で立派に活動し、必要とされていた。私はこれをライフワークにしようと、数頭のセラピードッグを連れて日本に帰国しました。

ところが日本に着いたら多くの人から「犬に何ができるんだ」と言われてしまいました。「犬が人を救う」ということにまったく理解がなかったのです。地道に啓蒙活動をするしかなかったのですが、当時、最も理解のハードルが高いと思われていた日本医師会が、実は一番理解がありました。医師の皆さんはセラピードッグのことをご存知で、温かく迎えてくれたのです。

東京都中央区で活動を始めて20年になり、4,000人の高齢者を支援しています。対象者の80%が認知症を患い、要介護4~5という状態です。全国では12,000人を対象に、障害者、病院ホスピス、がんセンター、子供病院、DVシェルター、矯正施設等で活動しています。



## 動物という最もアナログな存在が 人間を癒やす



犬がなぜこれほど多くの場で必要とされるようになったのか、人はなぜペットに依存するのかを考えてみると、犬や猫たちが持つピュアで裏切らない哺乳類として最大の良さなんだろうと思います。彼らは嘘を言わないし人を騙すこともしません。世の中がデジタル化によっていかに便利になっても人は病みます。私のようなアナログ人間からすると、動物という人にとって最もアナログな存在が病んだ人にとって必要なのです。

人には家族の悩みがつきものです。子どものいじめ、登校拒否、祖父母の認知症等々、家族が抱える問題はさまざまあります。認知症がエスカレートし、家族の手に負えなくなるとデイケア、ショートステイ、そして入所と介護施設に託すことになる。高齢者施設の入所者の70～80%が認知症です。

一方で、現役世代の自殺者は年間2万人以上といわれます。いちいち報道されませんが、日頃しばしば電車が止まるのは、多くが人身事故(自殺者)によるものです。そして、私たちは現代医学に頼っています。日頃、何らかの投薬をされている方も多いと思います。

私自身も自分の免疫機能だけでは生きられず、長年医学に頼らざるをえない状態です。病院では「眠れない」と訴えれば睡眠薬を処方されますが、心に効く薬はありません。処方箋を出すドクターや薬剤師の方々を対象にした講演会もやりましたが、心の悩みは自分で解決するしかない。特効薬はないのです。アメリカでの20年間は睡眠薬なしでは生活できず、今も手放せません。医療は万能ではないということです。聖路加病院、癌研、虎ノ門等、多くの高度医療機関が「医療は限界、医療では幸せになれない」と言っています。そんなときに存在感を発揮するのがセラピードッグです。

私にとっても、犬の存在はかけがえのない癒

やしです。夜遅く帰ってきて家族は全員寝ているけれど、愛犬だけは玄関まで迎えに出てくれる、なんて経験ありませんか？

私はこれまで11回の闘病を経験しました。4歳で吃音(どもり)を患い、小学校の先生からは「おい、どもり」と呼ばれてきました。そんなとき救いになったのが愛犬の存在です。犬がいてくれたおかげで言葉を克服し、言葉を音楽に乗せることを覚えたのです。12歳のときに一家離散し、犬と別れてしまったことが心のギルティだと思う気持ちが、今の活動を支えているのです。

## ゴミ捨て場から拾われ、セラピー ドッグ第1号になったチロリ



人は長い間、犬や猫を裏切ってきました。人に飼われる犬は現在1,589万頭、猫はその3倍という空前のペットブームを迎えています。日本人はこれまで、気軽に飼って手に負えなければ捨て、行政が殺処分をしてきました。この「殺処分」が問題で、アメリカの動物愛護団体からは「日本はアウシュビッツのようにガスで殺す」と厳しく指摘されています。「あなたは人前に出る仕事をしているのに、なぜ変えようとしらないのか」と言われ、一人の音楽家が法律のない日本で何ができるのか悩みました。日本ではこれまで年間65万頭もの動物がガスで殺されてきたのです。

あるとき生ゴミの中から足の悪い母犬と5頭の子犬を救出した。母犬をチロリと名付け、セラピードッグ第1号として育て上げました。チロリの活躍が動物愛護法の改正につながったと言っても過言ではないでしょう。大変立派な若い母犬で、教科書に載り、銅像も建ち、チロリを描いた児童書は12冊に及び、世界中で読まれています。

私たちは補助犬法という法律も成立させ、補助犬のステッカーが貼ってある場所には盲導犬や警察犬など人の役に立つ補助犬は入れるようにしました。しかしながら、ステッカーの

横には「ペットは不可」と書いてある。人に貢献すれば認めてやろうというのでしょうか、いずれ、これも変えていかなければならないと思っています。

チロリの具体的な活動事例を紹介しましょう。アルツハイマーを患ったある高齢男性。お元気な頃は犬が大好きだったそうで、ご家族からチロちゃんを連れてきてほしいとの要望をいただきました。要介護5の男性は失語症で何年も言葉を発することができなかつたのですが、チロちゃんに会ううちに免疫機能が活性化したのでしょうか、「チロリ」と名前を呼ぶことができるようになり、やがてご家族の名前を思い出し、なんと歩行も回復しました。チロリと過ごすことで、かつて元気で犬の散歩をしていた記憶を呼び起こしたのです。これがセラピードッグの効果です。

チロちゃんと5年間過ごしたこの男性は、91歳で脳梗塞を発症し、集中治療室に入ります。アメリカでは可能ですが日本の病院では集中治療室に犬を入れることはできません。ご家族はチロリの絵本を枕元に置いて励ましました。彼の最期の言葉は「チロちゃんありがとう」だったそうです。葬儀でようやく男性と再会できたチロリは、棺の側から離れようとしませんでした。

### 「自分の仕事を娘に言えない」



日本で殺処分された犬は65万頭。このうち千葉県動物愛護センターはワーストワンの2万頭でした。私はNHKに依頼して殺処分の様子を初めて撮影し、ドキュメンタリーとしては当時最高の視聴率を獲得しました。この時、ガス送りの最後の部屋から3頭だけ救出できたのですが、それが私個人の限界でした。経済力があればすべてを救えたと思いますが、65万頭に立ち向かうのは不可能でした。

皆さんはよく「安楽死」という言い方をしますが、そんな生易しいものではありません。ガ

スを吸った犬たちは断末魔の悲鳴を上げ、「窒息死」するのです。日本のペット産業は1兆2千億円市場と言われますが、法律が整備されていないばかりに、一方でこういうことが続けられているのです。しかも殺処分現場ではガスの致死量をケチって、まだ息のあるうちに焼却炉に投げ込むということまでしている。ペット産業が捨て犬捨て猫の元凶をつくり、行政がそんな方法で殺処分をする。欧米の愛護団体が「アウシュビッツだ」と日本を非難するのも理解できます。

千葉県の愛護センターでは勇気のあるスタッフが、私の講演会を開催してくれました。「本当はガスなんて使いたくない」「自分の仕事を娘に言えない」と苦しんでいた彼らが、一緒に立ち上がってくれたのです。

どの県にも愛護センターはありますが、2014年、岐阜県が殺処分しない＝ガス室のない愛護センターを作りました。岐阜県議会が「ガス室はダメだ」と理解してくれたのです。報道によって日本の殺処分事情が大きく注目されたことが大きかったと思います。

東日本大震災ではセラピードッグを連れて被災地に入りました。福島はペットや家畜との同行避難ができなかったため、被爆した多くの動物が被ばくしました。除染すれば健康は取り戻せます。私たちは「捨て犬ではない、被災犬だ」と声を上げ、犬たちを救出して除染し、うち5頭が立派なセラピードッグに育ちました。どんな犬もきちんと教育を受ければ立派な犬に生まれ変わります。どんな状況でも救った犬に落ちこぼれはいません。

### 世界を変える動物愛護の信念



動物愛護世界一といわれるドイツは、アウシュビッツの経験から、「命にガスは使わない」を信念に活動しています。私が理想とするベルリンの愛護センターは多くの企業の支援で成り立ち、世界中の保護活動家が研修に来て

います。

ニューヨークの愛護センターは、2013年から愛護団体とニューヨーク市警の共同で運営されており、里親に名乗りを上げた人は生活環境等、厳しい審査を受けて、やっと引き取りを許可されるというしくみです。

戦火のウクライナではペットとの同行避難が実現しました。多くの市民が犬や猫を連れて国境を越え、ポーランドに入国することができました。ポーランドはすべての検疫をフリーにして受け入れました。そのことを知った私はポーランドの愛護団体に日本での引き受けを申し出ました。するとポーランドの日本特派員が「戦争が終わったら被災した犬たちをすぐに家族の元へ返したいから、遠い日本に送るのはしのびない、隣国が守ります」という団体の返事を持ってきました。すごい覚悟と信念です。私自身はウクライナに直接入国できないため、チロリの絵本をウクライナ語に翻訳して贈ることにしました。

韓国の愛護団体からは「我々の国は犬を食べている。許せない。この国を変えたい」と講演の依頼がありました。最初は躊躇したのですが、現地に入ると多くの方々に歓待されました。朝鮮日報の社会面一面で紹介され、テレビのニュースでも取り上げられました。チロリの本は韓国でも読まれ、これが原動力になって、予想よりも10年早く変化が訪れました。法律で犬食が禁止されたのです。

これまでの活動では救えなかった命は数え切れないほどで、この活動でどんなに評価を受けても、救えなかった命の数を思うと、評価を喜ぶ心境にはなれません。

どんな小さな命でも、それを救えない者は、人を救うことなどできません。命あるものは幸せになる権利があるのです。静岡県は世界に誇れる動物愛護センターを作ってほしいのです。ドイツやニューヨークのように世界中の人が視察にやって来るような立派な施設を作ってください。





## 講演

# 静岡県における 動物愛護の推進について

講師

静岡県健康福祉部生活衛生局衛生課 技監

阿部 冬樹氏



### 殺処分ゼロは実現可能

静岡県はかつて狂犬病が多く発生し、放し飼いや捨て犬、捨て猫も数多くいました。狂犬病予防法が成立したのは昭和25年。静岡県では昭和28年以降、狂犬病は発生しておらず、野犬も存在しません。犬の放し飼いは激減し、室内飼育が増えました。捨てる飼い主も減りました。

猫の場合は、去勢済みの証明である耳をカットした猫が地域で増えました。住民の理解のもと、地域で適正に管理できるようになりました。飼い猫は室内飼いが当たり前になり、捨て猫も激減しています。

県としては狂犬病予防法や動物愛護法に基づいた施策により、動物の適正な保護や愛護意識の浸透、虐待防止等の効果が上がっているとみえています。静岡県の動物愛護管理推進計画が目指すのは「人と動物の共生する社会を目指す」ということです。共生とは命ある動物と共に生きるということですが、人の生命や財産を侵害することのないよう、アクセルとブレーキのバランスを取ることが重要です。

最新の推進計画では「殺処分ゼロを目指す＝殺処分が必要ない社会をつくる」を大きな目標としています。計画は10年単位で数値目標を更新しており、平成18年(2006)には殺処分数11,506頭を10年間で半減させようとして取り組んできましたが、2011年には早くも半数以下(4,915頭)を達成し、2022年には102頭(犬1頭、猫101頭)と99%減となりました。このまま減り続ければ殺処分ゼロも夢ではないと実感できる数字です。

### 静岡県動物愛護センターの開所に向けて

静岡県内では政令指定都市を除くエリアで保健所7カ所、動物保護指導班4カ所にて活動しています。県の動物管理指導センターは浜松にあり、昭和50年に設立されました。当初、殺処分のための施設として建てられましたが、現在は基本的に殺処分をせず、やむをえず殺処分をする場合は炭酸ガスではなく麻酔薬を使用しています。

県動物管理指導センターは殺処分をするというネガティブなイメージがあり、また場所も地域的に偏っており、さらに建物が古く耐震性にも問題があるということで新施設の構想が立ち上がりました。令和2年度には「人と動物の共生推進のための拠点検討会」が設置され、専門家による検討が進められてきました。そして、富士市の県立富士見学園に静岡県動物愛護センター(仮称)を設置することが決まりました。

ここでは譲渡機能を柱とし、保護引き取りをした犬猫の長期飼育、健康管理やしつけ、新しい飼い主さがしに注力します。また子どもたちを対象とした動物愛護教室や飼い主への飼い主教育の実施、犬猫ふれあいイベント、地域猫活動への支援、災害時の動物対策等を推進し、県民に親しまれ、愛される動物愛護の拠点を目指そうと考えています。

2025年の開所に向け、今年から工事を始めます。施設の愛称＝ネーミングライツも募集しますので、ぜひご協力をいただければと思います。

## パネルディスカッション

# 動物と共に 幸せに暮らせるまちづくり

### パネリスト

- 鈴木 準弥 氏 (FC町田ゼルビアDF、(株)準弥 代表取締役)
- 大木 トオル 氏 (音楽家、一般財団法人国際セラピードッグ協会創始者)
- 阿部 冬樹 氏 (静岡県健康福祉部生活衛生局衛生課 技監)
- 中山 勝 氏 (一般財団法人企業経営研究所常務理事、TESS研究員)

### コーディネーター

- 阪口 瀬理奈 氏 (一般財団法人静岡経済研究所特任研究員 TESS研究員)

### Jリーガーの発信力を活かして

(阪口) 先ほどの基調講演等を通し、あらためて私たちの社会は動物がいるということが前提になっていると実感しました。動物を飼っている人もそうでない人も、動物とともによりよく暮らしていくために何が必要かを考えていきたいと思います。

(鈴木) 沼津市出身で清水エスパルスユースからドイツへ行き、藤枝、秋田を経てFC東京に移籍し、昨年FC町田へ移ってJ1昇格を果たしました。今年からJ1で闘いますのでよろしくをお願いします。

今、サッカー選手をやりながら動物愛護を推進する会社を立ち上げ、活動しています。もともと犬が好きで、小さい頃から犬のいない生活は経験していません。結婚後、初めて授かった子どもを流産で亡くした経験が大きく、その後2人の娘を授かることができましたが、流産や不妊治療で苦しむ人々にはずっと心を寄せていました。

秋田時代、コロナ禍で自宅に居ることが多く、

たまたまテレビを見ていたら、犬や猫の殺処分状況を知り、ショックを受けました。その後、秋田県動物保護センターや秋田犬保存会の代表の方と対談してSNSで発信し、多くの反響をいただいたのがきっかけで、Jリーガーである自分ができることをやろうと会社を作りました。サッカーに興味があっても動物には接点が無かった人、動物は好きだけどサッカーには興味がなかった人にも発信できると思ったのです。



鈴木 準弥 氏

(中山) 富士山地区分科会で登壇するのは、2007年にファルマバレーや富士山世界遺産をテーマにした時以来です。今回の登壇は私自身、60年以上の飼い犬歴があり、戌年生ま

れだからだと思っています。

サンフロント21懇話会での活動をきっかけに、2016年、NPO法人「人と動物のハッピーライフ」という団体が設立され、県東部の動物愛護活動を推進しています。富士市の市民活動支援補助金の審議員を務めた際は、犬猫保護団体13件の補助金を採択しました。その中の一つ、認定NPO法人「捨て猫をなくす会」は、鈴木さんという女性の代表が自費で3,000万円かけてシェルター「終の棲家」を設置しました。その後保護活動費を捻出するために始めたクラウドファンディングは目標額250万円のところ725万円の支援が集まり、現在、行き場のない170匹の猫を保護しているそうです。

### 飼い主の意識改革、まずは条例づくりを

**(阿部)** 私も子どもの頃から動物が身近にいた環境で育ち、今も猫を3匹飼っています。実際に業務で動物愛護に関わるようになり、かわいだけでなく、しっかり躾をすることが必要だと実感しています。

私が県に入庁した当時は、野犬が多い時代でしたが、今の野犬はほとんど飼い主から離れた犬です。飼い主からの連絡がなく、引き取り頭数も減っており、やむをえず処分せざるをえないという例が少なくありません。「ペットショップで新しい子を買ったから、今飼っている子はいらない」というような飼い主もいます。その意味で、飼い主は責任感を持っていたきたいし、誰が飼い主かを把握するしくみも必要です。自治体で情報を共有し、取り組まなければならないと思っています。

**(阪口)** 飼い主の責任を向上させるにはどうしたらいいと思われますか？

**(大木)** ペット愛好家自体は私の時代と比べたら、ものすごく増えています。保護活動家も

増えましたね。最も遅れているのは法律です。日本の動物愛護法は1973年に成立しましたが、欧米との違いをまざまざと実感しました。これまで犬猫を助けてほしいと40年以上訴え続けてきましたが、日本も韓国も中国も動物愛護は世界から50年遅れているといわれました。実際、アジアでは大変な数の犬猫をガスで殺してきたのです。

私自身の活動は最初は純粋に「かわいそうだから」という気持ちで始めましたが、だんだん数が増えて、救えなかった命は膨大となり、年齢を重ねるとともにその重みが辛く感じられます。3~4頭救っても翌日何十頭ガスに送られる現実を目の当たりにし、これを何十年と繰り返すとメンタリティーもおかしくなる。やはり諸外国の法律を取り入れ、真摯に作り込んでいかなければ日本は変わらないのです。日本人は素晴らしい民族だと信じていますが、この分野に関してはどうしてだろうと思っています。法律がきちんと整備されなければ、保護活動家ばかりが悲惨な思いをするばかりです。

政治家は選挙があるから民意を無視できません。選挙のたびに私のところへ多くの立候補者がやってきて、「動物愛護に力を入れます」と言って一緒に写真を撮りたがる。そんなこんなで動物愛護法は4回の改正でようやく殺処分用のガスの撤廃に至りました。

長いこと、自分の敵は保健所だと思っていたのですが、そうではありませんでした。保健所の職員も「夜、眠れない」と苦しんでいました。結果的に彼らは私たちの味方になってくれまし



阪口 瀬理奈 氏



た。法律の改正は容易でなくても日本は地域単位の条例なら作りやすいのです。静岡はこうだと示していただきたいと思います。

**(阪口)** 殺処分をなくすというのが大きなテーマになるのでしょうか？

**(大木)** 元警視総監で法務大臣も務めた政治家から「日本人の意識を変えるのは難しい」と言われ、大げんかになったことがあります。彼から「アメリカからプレッシャーをかけてみる、日本はアメリカに弱いぞ」と助言されました。時間はかかりましたが、そのアドバイスが奏功し、4回の改正でガスによる殺処分禁止にこぎつけました。国会で動物愛護を初めて取り上げたのは、私の友人でもある歌手の李香蘭＝山口淑子さんでした。最初は「馬鹿野郎、女はひっこめ」とヤジが飛んだ、そういう時代でした。

今はだいぶ改善されましたが、油断はできません。捨て犬が増え、保健所の許容数がオーバーしたら再び殺処分をやりかねないのです。民主主義の力でなんとか食い止めたいし、静岡で新しい施設ができるのは本当にありがたいことです。「静岡の条例はいいね」と言われるようなものをいくらかでも提案しますし、協力もします。国の法律がなくても、市や県からどんどん作り込んでいき、他の地域とは違うというところを見せてほしいと思います。

### ペットと暮らしやすいまちづくりに向けて

**(阪口)** 愛犬家の意識は確実に変わってきていると感じますが、一般の人が実際に愛護活動を始めるのは容易ではないと思われま。鈴木さんは何がモチベーションになったのですか？

**(鈴木)** 自分がサッカー選手だったというのが大きかったですね。サラリーマンだったら一

歩踏み出すのは難しかったかもしれません。サッカー選手は夢や希望を持たれる存在です。少しでも何か変化を加えられるんじゃないかと思うし、無責任なことはできませんが、発信するのは悪いことではないと思います。

少子化や高齢化が進み、子どもをもたない夫婦が増えるなど家族のあり方が変わる中、周りに支える人がいれば犬を飼う人は増えると思います。自分が年を取ったとき、支えてくれる人がいないからと飼うのをやめるのは悔しいことです。転勤族でペット可の住まいを探すのも大変です。高齢化社会とペットの問題は避けて通れない問題だと思います。

**(中山)** 先代の愛犬が亡くなってかなりのペトロロスに陥りました。今の犬は長野県のブリーダーのHPで、先代とそっくりの犬を見つけたのがきっかけです。その意味で私自身は幸運で



中山 勝 氏

でしたが、65歳の自分がいつまで飼えるのかを考えると悩ましいですね。

ある老人病院は30年前から犬猫のお見舞いをOKにしています。「患者様の満足度を考えた判断」だと。ペットと毎日会える環境を作ったその病院は、やはりとても評判がいいのです。この問題はコミュニティーやまちづくりにもかかわることです。海外でも小さな市町から「ペットと暮らしやすいまち」「ペットの散歩で排泄しやすいまち」をアピールするところがあります。

**(阪口)** 動物に比べ、人間の優先度が大きすぎる社会になってしまっていますね。そのせい

で動物と人とを引き離す結果となり、先ほど大木先生がおっしゃったように「小さな命を守れない社会はどうか」につながるように思い

ます。小さな命に向き合っていくことが、まちづくりにも大切であると実感しました。今日はありがとうございました。

### 〈出演者プロフィール〉

#### 大木 トオル (おおき・とおる) 氏

音楽家、一般財団法人国際セラピードッグ協会創始者

音楽家。一般財団法人 国際セラピードッグ協会 創始者、一般社団法人 大木動物愛護協会 創始者、弘前学院大学客員教授、東日本被災犬保護プラザ代表、社会福祉学者（日米）

#### 阿部 冬樹 (あべ・ふゆき) 氏

静岡県健康福祉部

山口大農学部獣医学科卒（獣医師）。1992年静岡県庁入庁後、動物愛護業務をはじめ食品衛生、感染症研究等の公衆衛生業務に従事。2025年度開設予定の（仮称）静岡県動物愛護センターの開設準備を進める。

#### 鈴木 準弥 (すずき・じゅんや) 氏

FC町田ゼルビアDF、(株)準弥 代表取締役

沼津市出身。J1昇格が決まったFC町田ゼルビアに所属するプロサッカー選手。昨年、サッカー関連事業のほか犬の殺処分ゼロなど社会貢献のための会社を沼津で立ち上げた。

#### 中山 勝 (なかやま・まさる) 氏

一般財団法人企業経営研究所 常務理事

島田市（旧金谷町出身）。専門分社はマーケティング、経営戦略、地域経営。サンフロント21懇話会シンクタンクTESS研究員。静岡産業大学経営学部特任教授・総合研究所所長、静岡県、県内市町の審議会、委員会の会長、委員、日本大国際関係学部非常勤講師などを務める。

#### 阪口 瀬理奈 (さかぐち・せりな) 氏

静岡経済研究所

兵庫県西宮市生まれ。サンフロント21懇話会のシンクタンクTESS研究員、静岡経済研究所特任研究員、静岡県産業復興財団ふじのくにICT人材育成プロデューサー。京都大大学院卒業後、三菱総研を経て、2018年に静岡県に移住。ICT人材育成をテーマに県内企業を支援中。

# ラジオマイトーク



よしかわ まさあき  
**吉川 正明 氏**  
株イワサキ経営 代表取締役社長

モットー ▶ 人を変えることはできないが、人は変わる

趣味 ▶ 野球、料理

出身地 ▶ 三島市

令和6年3月3日放送

## 企業としての経営の経験値をお客様と共有

### お話のポイント

◆当社は税理士法人イワサキとの両輪で、会計事務所が母体の経営コンサルティング会社。岩崎一雄が創業し、今年50周年。県内全域の中小企業をサポートしています。32歳で後継者に突然指名され、人生で一番驚いた瞬間でした。当初は社員も戸惑ったようで、何度もくじけそうになりましたが、現在の社員数は当時の3倍になりました。

♥会計事務所自らが企業として成長してこそ良いサポートができるという岩崎の教えが業務の原点になっています。失敗を含めて経営の経験値をお客様と共有で

きるのが私たちの強み。経営者向け「吉川経営アカデミー」では気づきを提供。人は「変わる」と思います。

◆令和3年度に日本商工会議所青年部会長に就任。出張が多く、不在が増えた半面、社内デジタル化が進む結果に。全国の経営者と接して知見が広がり、地元の大切さも実感しました。中小企業が元気になれば若者の就職の選択肢が増えます。東京に負けない、元気な地域にしたい。

♣ネット上の音声番組「ポッドキャスト」で私の番組「ヨッシーのワクワクが止まらない」を昨年開始。仕事や私生活、商議所活動について週1回配信です。



せい の しんじ  
**清野 眞司 氏**  
株静岡中央銀行 代表取締役社長

モットー ▶ 着眼大局・着手小局、意志あるところに道は拓ける

趣味 ▶ ゴルフ、テニス

出身地 ▶ 福島県

令和6年3月17日放送

## 「訪問頻度管理」を徹底し、増収増益支える

### お話のポイント

◆第二地銀の当行は預金量7,000億円、貸出量6,000億円。支店は県内26、神奈川16、東京1の計43店舗です。銀行は規模に応じて得意層があり、当行は売り上げが20~30億円迄の規模の企業に対するパフォーマンスに優れ、成果を上げています。

♥増収増益を継続できているのは営業活動の根本に「訪問頻度管理」を徹底しているから。ニーズの頻度に応じて、例えば「週1度」と訪問回数と訪問日を前の月に決めてお客様を訪問し、ニーズに応えます。コロナ禍でお客様が苦労する中、国のゼロゼロ融資を素早く提供できたのもその成果です。

◆お客様には製造業と観光業が多くありますが、全ての業種でコロナ禍の影響をどう吸収するかが課題です。資金繰りは顧問税理士に任せきりにせず、何が資金を圧迫したり満たしたりしているかを社長自ら把握し対応することをお勧めしています。

♣「お買い物券付定期預金」は20年近く続く特徴的な商品。プレミアム金利に加え、お預け頂いた際に金額に応じて近隣の商店街で使える商品券をプレゼントする期間限定の特別定期預金です。また、「富士山フォトコンテスト」には約600人から驚くほどの情熱を懸けた写真の応募があり、最優秀賞の一点が一年間の当行カレンダーを飾ってくれます。



きたおか  
**北岡 ゆうこ 氏**  
株暖香園 取締役

好きな言葉 ▶ 謙虚と感謝

出身地 ▶ 伊東市

令和6年4月7日放送

## ゆったり周遊し、記憶に残る温泉場に

### お話のポイント

◆当ホテルは明治22年創業。伊東温泉で一番古いと思います。母が女将、次女の私は若女将です。直営ポーリング場は今では珍しい手書きスコアシートと本格的なウッドレーン。モンベ姿でプレーするのもユニークで、若者に「昭和レトロ」と喜ばれます。

♥コロナ禍を経て昨秋あたりから団体客やインパウンドが増えています。主に台湾、韓国。さらに欧米、タイなど。欧米のお客様はゆったり時間を過ごす方が多いです。外国人スタッフも12人ほどいて、役職に就いて活躍している人もいます。母国に家族を残し、いず

れ国に帰ってやりたい目標を持って来ています。

◆行動しやすい季節です。伊東温泉は全国有数の豊富な湧出量を誇る名湯。海と山、テーマパークもあり、ゆったり周遊していただけたら。当ホテルも大型連休には夕食後に地元グループのフラダンスやミニコンサートを催します。

♣伊東温泉旅館ホテル協同組合副理事長としてもお客様の記憶に残る温泉場になればと思います。視察に行くと、いろいろ気づきがあり、勉強になります。昨年「バンコク日本博」では日本に興味がある外国人の多さを実感しました。



## サンフロント21懇話会の 会員情報

### ■ 新たに入会された方

- ◇(株)暖香園 …………… 取締役 北岡 ゆうこ  
 ◇ダイレクトワン(株) …………… 代表取締役社長 安齋 善毅  
 ◇(株)東海道シグマ …………… 沼津支店長 三木 達嘉

### ■ 会員の変更

- ◇(株)静岡銀行沼津支店…………… 執行役員支店長 鈴木 淳史 → 山地 陸晴  
 ◇日本生命保険相互会社沼津支社…… 支社長 十河 健二 → 江口 淳一  
 ◇静岡県富士健康福祉センター……… 所長 藤野 勇人 → 石川 哲史  
 ◇静岡県下田土木事務所…………… 所長 戸塚 博文 → 佐藤 雅史  
 ◇静岡県富士農林事務所…………… 所長 西室 康二 → 諸田 僚  
 ◇静岡県沼津財務事務所…………… 所長 佐野 博之 → 高橋 新  
 ◇静岡県富士土木事務所…………… 所長 大塚 義則 → 平井 一彰  
 ◇東海ビバレッジサービス(株)……… 代表取締役 竹原 佳孝 → 谷川 浩二  
 ◇静岡県賀茂農林事務所…………… 所長 諸田 僚 → 深野 智恵子  
 ◇静岡県工業技術研究所富士工業技術支援センター  
 センター長 飯野 修 → 田中 伸佳  
 ◇第一生命保険(株)沼津支社…………… 支社長 横溝 有美子 → 田島 裕士  
 ◇伊東ガス(株)…………… 代表取締役社長 齊藤 大 → 齊藤 洸  
 ◇ダイワロイネットホテルぬまづ …… 支配人 林 靖也 → 和田 順平  
 ◇静岡県工業技術研究所沼津工業技術支援センター  
 センター長 鈴木 宏史 → 飯野 修  
 ◇中部電力(株) …………… 常務執行役員 静岡支店長 平松 岳人 → 植田 光紀  
 ◇静岡県東部農林事務所…………… 所長 乾 正嗣 → 市川 浩司  
 ◇静岡県熱海財務事務所…………… 所長 長谷川 達哉 → 佐野 晴也

### ■ 肩書、会員の変更

- ◇(株)ホテルグランド富士… 取締役社長 戸塚 祐一郎 → 代表取締役社長 小塩 秀行  
 ◇(株)電業社機械製作所…… 代表取締役会長 土屋 忠博 → 代表取締役社長 彦坂 典男  
 ◇静岡県東部地域局…………… 地域課長 長谷川 泰三 → 次長兼地域課長 神戸 重敏

### ■ 会員の変更

- ◇雄大(株) → 雄大グループ(株)  
 ◇(有)やまがた → (株)80SKIPホールディングス  
 ◇富士通Japan(株) → 富士通(株)

### ■ 住所、電話、FAX番号の変更

- ◇(株)野村商店 新住所 〒414-0024 伊東市和田1-9-16  
 TEL 0557-35-5010 FAX 0557-35-5020